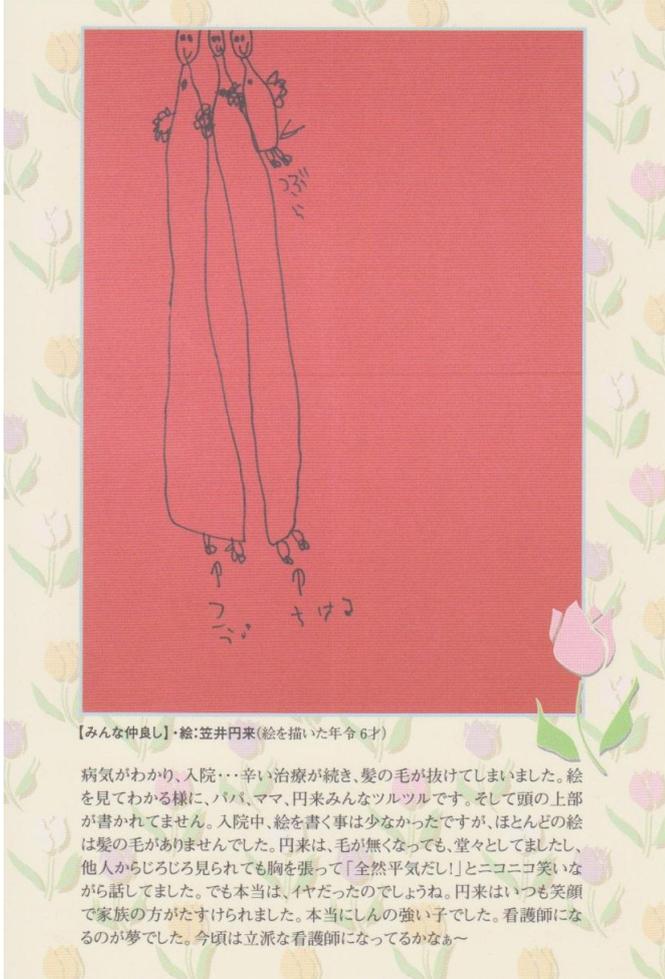


小児がんの **子どもたち** の絵画展

子どもたちの、 あふれる勇気と希望。。。。



【みんな仲良い】・絵:笠井円来(絵を描いた年齢6才)

病気がわかり、入院・・・辛い治療が続き、髪の毛が抜けてしまいました。絵を見てわかる様に、パパ、ママ、円来みんなツルツルです。そして頭の上部分がかかれてません。入院中、絵を書く事は少なかったですが、ほとんどの絵は髪の毛がありませんでした。円来は、毛が無くなっても、堂々としてましたし、他人からじろじろ見られても胸を張って「全然平気だし!」とニコニコ笑いながら話してました。でも本当は、イヤだったのでしょうね。円来はいつも笑顔で家族の方がたすけられました。本当にしんの強い子でした。看護師になるのが夢でした。今頃は立派な看護師になっているかなあ～

開催日
6月7日(木)～19日(火)
11:00～19:00

場所
ART&CAFE 胡風居

入場無料

住所：富山県富山市石屋201
TEL：076-411-6538
定休日：水曜日
HP：http://kofukyo.com/



子どもたちが純真な心で描いた一枚一枚の作品を通じて、“命の輝き”を感じていただけましたら幸いです。

～同時開催～

“メイク・ア・ウィツシュ展”
難病と戦う子どもたちを支援する
メイク・ア・ウィツシュ・オブ・ジャパン

”小児がんについて”

一般的に「15歳以下の子どもの白血病・脳腫瘍・骨肉腫・悪性リンパ腫など47種類のがん」のことを言います。

日本では子どもの病死原因の第1位で、年間およそ2,500人くらいの子どもの新たに罹患しており、

全国で16,000人近い子どもたちが いまも小児がんをたたかっています。

現在、医療の進歩により、小児がんは「不治の病」から、「治る病気」になりつつあります。とは言え、小児がんは子どもの病死順位の第1位を占めており、年間約550人の幼い命が失われていることも忘れてはなりません。

治る子どもたちに対しても、小児がんの治療には長い入院生活は避けられず、家族の二重生活、治療中の学校の問題、進学や就職、結婚や出産など、様々な困難があります。

そのためには、周囲の様々なサポートが必要となってきます。

“クリニクラウン”

入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪問し、遊びや関わり(コミュニケーション)を通して、子どもたちの成長をサポートし、笑顔を育む道化師のこです。

日本クリニクラウン協会も
協力していただいています。

公益財団法人

がんの子どもを守る会
富山支部(のぞみ富山)

富山支部代表 笠井功治・千晴・幹事一同
電話 080-1951-7363
メール sassan@pc.ctt.ne.jp
●協力/胡風居

